氏名： 舘　かおる （TACHI　Kaoru）
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系
学位： 文学修士 ／ Master of Literature
職名： 教授
専門分野： 女性学・ジェンダー研究
URL： http://www.igs.ocha.ac.jp/
E-mail： tachi.kaoru@ocha.ac.jp

◆研究キーワード ／ Keywords

ジェンダー／規範と制度／東アジア／ウェブ世界／教育
Gender ／ Norm and System ／ East　Asia ／ World Wide Web ／ Education

◆主要業績　総数（4）件

・舘かおる編著『ジェンダー研究のフロンティア第4巻　テクノ/バイオ・ポリティクス－科学・医療・技術のいま』作品社、2008年3月　　総頁294頁
・舘かおる・中村真由美「国内の女性学・ジェンダー研究ネットワーク形成にむけて－調査報告概要」『F-GENSジャーナル』11号　2008年3月　178 － 185頁
・舘かおる「女性学・ジェンダー研究と教育の制度化」目黒依子編『ジェンダー学と出会う』勁草書房　2007年6月　105 － 142頁
・舘かおる「近代天皇制国家と性別二分化―女性の役割表象と対抗形態」棚沢直子・中嶋公子編『フランスからみた日本ジェンダー史―権力と女性表象の日仏比較』新曜社　2007年5月　135-166頁

◆研究内容 ／ Research Pursuits

1.21世紀COEプログラムのプロジェクトCリーダーとして、研究成果を『テクノ／バイオ・ポリティクス－科学･医療･技術のいま』にまとめた。コロニアル･サイエンス、科学言説、テクノサイエンス、ウェブ世界、科学技術研究におけるジェンダー平等政策、生殖技術、遺伝子検査、医療機器開発、再生医療研究などをテーマとする論考は、「科学・医療・技術」領域のジェンダー研究という新領野の開拓を示すものである。
2.21世紀COEプログラム統括研究のサブリーダーとして、国内の大学で女性学・ジェンダー研究の授業を担当する教員にアンケート調査を行った。調査結果からは､国内の高等教育機関におけるジェンダー研究の「教育ネットワーク」の形成が強く望まれていることが明らかになった。また、関連する研究として日本の「女性学・ジェンダー研究と教育の制度化」の歴史的展開過程に関する論考をまとめた。
3.「東アジアの植民地的近代とジェンダー」の研究テーマは、「モダンガール」を分析ツールとした科学研究費プロジェクトから発展させ取り組んでいる。フランスとの国際比較研究では、日本近代天皇制国家におけるジェンダーの構築を論じた。

◆教育内容　／　Educational Pursuits

1. ＜ジェンダー研究センター＞の事業として、次にあげるセミナーを主催した。
菅野琴（元駐ネパールユネスコ代表）「教育におけるジェンダー平等－ネパール EFA 第 5 目標達成の経験から－」、Li-Ling Tsai（國立高雄師範大學准教授・性別教育研究所所長）「Gendered Participation in Physics in Taiwan」及び Ling-fang Cheng(高雄医科大学准教授・ジェンダー研究センター所長）「In a Men's World: Women in the Medical Profession in Taiwan:1950-1995」、多和田葉子（作家）「多和田葉子とエクソフォニーをめぐる旅」、Ester B. Ogena（フィリピン科学技術省科学教育研究所長）「フィリピンの科学技術分野における女性」。
なお、ジェンダー研究センターが女性自然科学者のパイオニアの資料整理と科学史研究への礎を培ってきた蓄積を生かし、国立科学博物館主催「なでしこたちの挑戦―日本の女性科学者技術者」展（2008 年 3 月―5 月開催）の企画、カタログの執筆・監修において、学術協力した。
2. ＜授業、論文研究指導＞は、（学部）コアクラスター・ジェンダー「知の生成論」、(大学院前期課程)「ジェンダー基礎論」「同演習」「開発・ジェンダー論特論」、（博士後期課程）「ジェンダー史論Ⅰ」「同演習Ⅱ」を担当した。主指導院生の修士論文には「ヘテロノーマティヴな『身体』の攪乱」、「化学物質のリスク管理と『リプロダクティブ・ヘルス / ライツ』」、「『軍産複合』にみる『男性性』の位相―日本における自衛隊と民間企業の関係を事例として」など、魅力的なジェンダー研究に取り組むものも多い。博士論文の審査では「外見の問題経験をめぐる社会学的考察―顔にあざのある女性のライフストーリーから」と「日本近現代文学における〈老女〉表象―ジェンダー／エイジング批評の視座から」の副査を務めた。

◆研究計画

第 1 に、大きな視野に立てば、21 世紀 COE で開拓した「科学・医療・技術」領域のジェンダー研究という新領野をさらに拓くことを展望している。個人的には、当面、ウェブ世界の「ジェンダー」の様相を解明する研究方法論の開拓に務め、ウェブ世界の現出が、人間の「知」の生成過程を変容させる、新たな要因を把握することに挑む予定である。

第 2 に、東アジアの女性学・ジェンダー研究ネットワークの形成を図り、研究と教育の双方において、ジェンダー研究を推進することを計画している。それは、アジアの文脈におけるジェンダー研究の課題をより明確にし、共同研究の具体化をもたらすものとなる。

第 3 に、当面の研究課題の一つは、上記の 2 つの視点をリンクさせつつ、「満洲」というフィールドにおいて、コロニアル・モダニティやコロニアル・サイエンスのジェンダー分析を試みる予定である。

◆メッセージ

ジェンダー研究は、女性学の成立から数えても、まだ 40 年の歴史にも満たない新しい学問研究です。しかし、ジェンダー研究は、これからの世界が、20 世紀システムでは立ち行かなくなったからことから生まれてきました。お茶の水女子大学には、日本の大学で初めて設立された、ジェンダー研究センターという場もあります。21 世紀の世界で生きるあなたたちが、ジェンダー研究を学び、まだ誰も知らない新しい世界を拓いて行くことを期待しています。